

美濃手すき和紙

美濃地方で販売されている和紙のほとんどは、美濃手すき和紙（「手すき」は「手で漉く」という意味）というブランドです。美濃手すき和紙についても本美濃紙と同様に、厳しい認定基準が設けられています。本美濃紙も美濃手すき和紙も基本的工程は同じですが、本美濃紙が茨城県大子町で育った楮（こうぞ）の内皮繊維のみを用いるのに対し、美濃手すき和紙は、楮（こうぞ）のほか、ミツマタ（ジンチョウゲ科）や雁皮（アオガンピ属の低木）を使用することができます。

機械乾燥

もう一つの大きな違いとして、本美濃紙は必ず天日干しをしなければなりません。美濃手すき和紙の場合は機械を使って乾燥させることができます。こうすることで、美濃手すき和紙は一年を通して生産することができます。美濃和紙の里会館（美濃市）では、数種類の手漉き和紙づくりを体験することができます。

美濃手すき和紙の種類

美濃手すき和紙には、落水紙（らくすいし）、生紙（きがみ）、雲竜紙（うんりゅうし）などの種類があります。落水紙は、乾燥する前に水をかけて水滴の模様をつけたものです。生紙は、原料のみですき、天日と水で漂白しないため、より温かみのある色に仕上がります。雲竜紙は、繊維を長めにちぎってすき入れたもので、自然な感じの美しい模様が生まれます。これらの和紙は、提灯や扇子、便箋などに用いられます。